

CX週間展望(1月24日～)

週間展望(1/24～1/30)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/24～1/30)

～ ドル円～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「FRBによる今年3～4回程度の利上げや、バランスシート縮小を、ある程度織り込んだ可能性があるものの、先週末には113円台では押し目を買い拾われ、ドル円は長い下ヒゲを形成しており、一旦は下げ一服。戻りを試す流れとなりそう」としたが、18日、日銀金融政策決定会合で大規模な金融緩和の継続が発表され、展望レポートで2022年と2023年の物価見通しを引き上げたが、市場の想定範囲内にとどまったことで、金融正常化に向けての期待感が後退して円売りが優勢となった。一時、115円台へ戻りを見せた。

自律反発も、戻り売り

- ただ、米連邦準備理事会 (FRB) が早期に金融引き締め動き、米経済の景気減速につながるとの警戒が高まり、米長期金利は2年ぶりの高水準を付け、相対的な割高感が意識されやすいハイテクなど高PER (株価収益率) 株への売りも続き、リスク回避の円買いから、113円台へと下押された。
- 19日の欧州債市場で、ドイツの10年債利回りが2019年5月以来初めてプラスに転じ、ユーロ買いドル売りの動きとなった。
- 先週末のドル円は、米長期金利が低下し、日米金利差縮小を見込んだ円買い・ドル売りが優勢となった。米金融政策の正常化が米景気の減速を招くとの警戒感から米株相場の下落が続いており、リスク回避姿勢の円買いも一因。
- ラガルドECB総裁は「金融政策ではFRBのように迅速に行動する必要はない」としたが、「必要であれば対応する用意がある」とも述べ、ユーロ買いとなった。
- CFTC建玉明細 (1/18現在) によると、大口投機玉は、80,879枚の売り越し。前週 (87,525枚の売り越し) から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/24～1/30)

～ ドル円～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 12月のユーロ圏の消費者物価指数は、前年同月比で5.0%の上昇となった。これまでで最も高い伸び率を2か月連続で更新。
- ドイツ連銀のヨアヒム・ナーゲル新総裁は1月11日の就任後の初スピーチで、高インフレが現在の想定よりも長期化する可能性を警告し、ECB政策委員らに注視するよう促しており、ECB政策委員会メンバーであるビルロウドガロー・フランス中銀総裁はECBのインフレ予測は確実なものではなく、物価上昇がより持続的であればECBは行動すると18日に発言した。ラガルド総裁もインフレと闘う姿勢を確認し、「物価上昇が多くの人々の懸念を招いていることを理解し、その懸念を真剣に受け止めている。物価安定へのECBのコミットメントが揺るぎないものであると信じてもらいたい。インフレ期待を安定させユーロへの信頼を維持するため、それが必須だからだ」と語った。
- 欧州債券市場では9月か12月の理事会で利上げが決定されるとの見方が徐々に強まっている。仮にインフレが想定よりも長期化・深刻化する可能性が強まれば、早めに行動する可能性は否定できない。
- 一方、25～26日に米連邦公開市場委員会(FOMC)が開催される。FOMCメンバーからは、これまでにインフレ抑制のために金融正常化や利上げ、バランスシート縮小に関して前向きな発言が相次いでおり、3月の利上げに向けた地ならしが行われるかが注目される。
- 一目均衡表では、雲の厚みは薄く支持線としても、抵抗線としても信頼性が落ち込む時間帯。月末には変化が起こりやすい雲のねじれも相次ぐ。

FOMCに注目

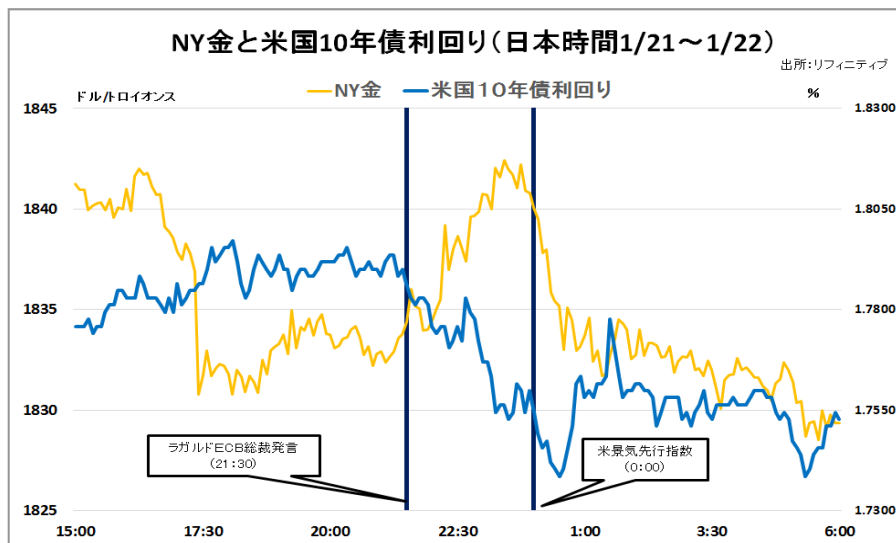
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/24～1/30)

～ 貴金属市場 (金：GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「欧米の出口戦略が進んで行くようなら、最も早く悪影響を受けやすい新興国動向にも注意。新興国には資源国も多く、供給リスクから商品価格押し上げ要因(インフレの高まり)につながる可能性も。金の押し目買い戦略は継続したい。ウクライナを巡ってロシアと欧米が10～13日に協議したが、欧州安全保障協力機構(OSCE)の会合で打開策を見いだせず、対話が行き詰まったことから、戦争突入に対する懸念が高まっている。地政学リスクに対する買いも注目されそう。」としたが、NY金(2月限)は、中東の地政学的リスクの高まりを受けて原油が一段高となったことに加え、英国やユーロ圏の消費者物価指数(CPI)を受けてインフレ懸念が高まり、ユーロ高を好感。米連邦準備理事会(FRB)の大幅利上げの見方から米国債の利回りが一段と上昇し、リスク回避の株安に振れると、金に逃避買いが入った。
- 先週のNY金(2月限)は、続落。20日に中心限月として約2ヶ月ぶりの高値を付け、21日は利益確定売りが優勢となった。ユーロ高につれて反発する局面もあったが、インフレ高進の火種である原油高が一服していることも利食い売り要因となり、引けにかけて戻りを売られた。
- ただし、米10年債利回り低下が下支え要因となり、下げ幅は限定的だった。
- CFTC建玉明細(1/18現在)によると、大口投機玉は、194,207枚の買い越し。前週(199,737枚の買い越し)より縮小。

インフレ懸念・地政学
リスクを材料視

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/24～1/30)

～ 貴金属市場 (金 : GOLD) ～

調査課

菊川 弘之

【今週見通し・戦略】



- 米長期金利上昇も、ドルの上値・金の下値は、それぞれ限定的で、金利上昇に対する感応度は限定的となっている。既に、FF金利先物が織り込む利上げ回数は、年内に3回超を織り込んでおり、市場はFRB利上げを、かなりの部分織り込んでいることが、米金利上昇に対する金やドルの感応度低下につながっている。
- 米長期金利上昇にも関わらず、金の下値を支えたもう一つの理由が「地政学リスク」の高まり。ロシアとウクライナ情勢の緊迫化に加えて、サウジアラビア主導の連合軍が報復措置でイエメンの反政府武装勢力フーシ派が支配する同国の首都サヌアを空爆したことで地政学的リスクが高まった。
- また、ロシア軍の国境付近への部隊集結でウクライナ情勢が緊迫する中、ペルーシのルカシェンコ大統領は17日、ポーランドやウクライナとの国境に近い西部や南部で2月にロシアとの合同軍事演習を行うと発表。
- 演習の前段階は2月9日に終了し、同10日～20日に合同軍事演習「同盟の決意2022」が実施される。
- ブリンケン米務長官とロシアのラブロフ外相は21日、ウクライナ情勢を巡りスイスのジュネーブで会談した。米国はロシアが求めている安全保障について、次週回答する方針を示し、軍事紛争に発展する恐れのある危機解決に向け協議を継続する方向で一致したものの、双方の主張は平行線を辿ったまま。更に、イランの核合意復帰交渉も難航している。
- 具体的な供給障害を伴って産油国絡みの地政学リスクが高まった場合、原油の急騰も想定され、金の安値は売り込みがたい地合い。急速に地政学リスクが高まる可能性もあり、金の押し目買い戦略は継続したい。

ウクライナ侵攻の可能性も

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりませんが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/24～1/30)

～ 貴金属市場(白金: Platinum) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

ダブルボトム完成

- 先週レポートで「NY白金は、2020年3月安値～2021年2月高値までの上昇に対する半値押し水準を支持線として、ダブルボトムを形成中。ネックラインは2021年11月高値。同水準を明確に上抜いてくると、ダブルボトム完成。強気感が増す。～中略」。JPXは、価格帯別出来高の厚い3780円～3820円水準は上値抵抗。心理的節目3500円水準が下値支持帯として機能するか否かが焦点」としたが、NY白金(4月限)は、米金融正常化観測からの長期金利上昇に伴う株安となったものの、中東の地政学的リスクの高まりを受けて原油が一段高となったことに加え、英国やユーロ圏の消費者物価指数(CPI)を受けてインフレ懸念が高まり、金に逃避買いが入り、相対的な割安感の強かった白金にも買いが入った。
- JPX白金も円高が上値抑制要因となったものの、3500円水準の下値を確認し、NY白金に追随して、3838円(1/21高値)まで上値を伸ばした。
- 先週のNY白金(4月限)は反落。序盤に買いが先行し、1054ドルまで小高くなる場面があったが、中盤から後半は金、銀の軟調な値動き、欧米の株価の下落が警戒され、短期筋の利食い売りなどで1030ドル割れを試した。押し目買いで1030ドル台を回復したが、買いは続かず、上げ幅を削る展開となった。
- CFTC建玉明細(1/18現在)によると、大口投機玉は、7,229枚の買い越し。前週(5,289枚の買い越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/24～1/30)

～ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ～

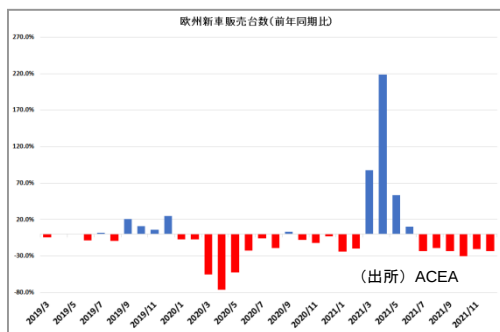
調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 欧州自動車工業協会(ACEA)によると、12月の欧州連合(EU26)の新車(乗用車)登録台数は前年同月比22.8%減の79万5295台となった。
- 2021年は前年比2.4%減の970万0192台。世界的な半導体不足などが響き、過去最低を記録した前年をさらに下回った。



- NY白金は、2020年3月安値～2021年2月高値までの上昇に対する半値押し水準を支持線として、ダブルボトム完成。一目均衡表からの上値目標のN=1038.2ドル達成。次の上値目標は、V=1090.1ドル、E=1123.5ドルなどがカウント可能。
- JPX白金は、価格帯別出来高の厚い3780円～3820円水準が上値抵抗として意識され、前週末は上ヒゲの長い十字線引けとなった。早々に十字線高値(3838円)を更新できないと、調整が予感される形状。十字線安値(3717円)を割り込むと、一時的な下げ加速も。
- ボリンジャーバンドでは、「白金-金」の鞘は、「金売り・白金買い」のバンドウォーク形成中だが、+2σを突破しており、上方から+2σを割り込んでくると、一旦は、ポジション調整の巻き戻しも要想定。ただし、中心線を鞘チャートが割り込まない限りは、「金売り・白金買い」は継続する。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/24~1/30)

～ ゴムRSS 3号先物～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《上海市場が大きく崩れなければ現物売り圧力も限定的となりやすく、季節的には買い方有利の時間帯で、押し目買い戦略を維持したい。2021年11月高値を上抜けば、チャート形状は好転する》としたが、先週のRSS3号は、人民銀が利下げを含む金融緩和姿勢を発表し、上海ゴムが反発、JPXゴム中心限月は一時昨年11月末以来の水準まで上昇した。

【今週見通し・戦略】

- ただ、週末にかけて株式市場が大幅安となる中、JPXゴムも上げ幅を削った。円高進行も一因。
- 全国生ゴム営業倉庫在庫(1/10日現在)は、11, 689トン(前旬比233トン減)。1月上旬の入出庫は入庫230トン、出庫453トン。
- 国内の順鞞幅は1－6番限で縮小継続。産地価格は大幅下落、上海ゴムも大幅安となる中で、JPXゴムは相対的に強含んだ格好で、目先は減産期をにらんだ買いヘッジが続きそうだが、今後2月に入っていくと、限月によっては新規入着の可能性も出てくる。
- 月間騰落率は、12月・1月の買い優勢と比べると、2月はほぼイーブンな季節傾向。
- 目先は、FOMCを受けた株価・ドル円動向に加えて、地政学リスクを受けた原油動向にも左右されそう。

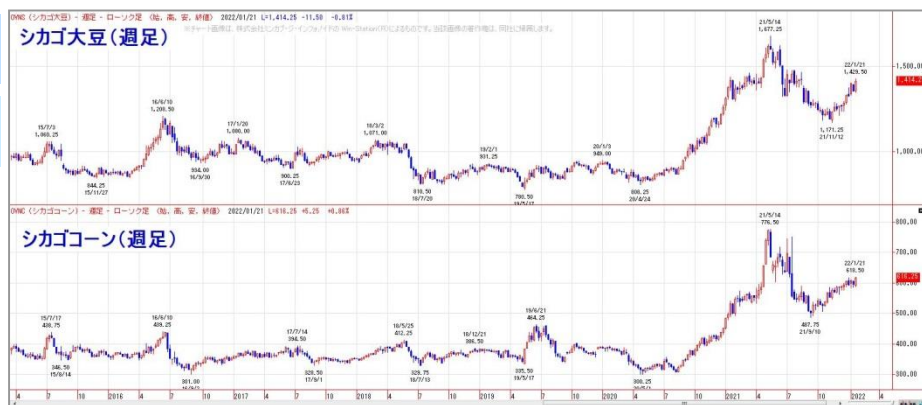
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/24～1/30)

～ 穀物市場(大豆・コーン) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「1～2月が南米産の天候相場の最盛期。1月後半は授粉を終え、実が付くデント・ステージになる。ここからは、生産予想が大幅な上方修正に転じる可能性は低い。米国産の期末在庫率も上方修正されたとはいえ、余裕ある数字ではない」としたが、先週のシカゴ穀物は、大豆が昨年6月以来の高値をつける上伸となった。アルゼンチン、ブラジル産地で15日以降、降雨が続いており気温も低下しているものの、それまでの高温乾燥の影響で生産量見通しが下方修正されている。これらの国々からの輸出量が縮小し、一方で米国の輸出入需要が増加するとの見方が強まっている。
- 米コーンは、原油高や、2月のアルゼンチン産地の天気が高温乾燥予報に支援され、期近3月限は610セント台を維持する上昇となった。
- CFTC建玉明細(1/18現在)によると、大豆の大口投機玉は、128,015枚の買い越し。前週(138,272枚の買い越し)から縮小。コーンが388,138枚の買い越し。前週(407,492枚の買い越し)から縮小。
- 週間純輸出成約高(1月13日までの週)

【今週見通し・戦略】

- 大 豆: 119万9000トン(事前予想レンジ: 70万～150万トン)
- コーン: 119万6300トン(事前予想レンジ: 50万～120万トン)
- 米農務省(USDA)需給報告で昨年12月の予報から南米2カ国の生産見通しを下方修正した。南米産地ではブラジル産のコーンの収穫が始まり、アルゼンチン産コーンも本格的な生育期を迎えている。既に生育期を迎えており、ここから作柄が大幅に改善は難しい。2月安(南米産収穫に伴う下げ圧力)は、大豆・コーン共に限定的となる可能性。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/24～1/30)

～ 原油市場(ドバイ原油・CME原油指数)～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで《プーチン大統領からすると、この同胞を見捨てたら、政権が崩壊するため、どれほど制裁を受けても、引くことはない。米国が制裁は有効との誤認識を持って対応すれば、ロシアのウクライナ侵攻の可能性は高まり、バイデン政権のレイムダッグ化は、更に進む。原油の上値リスクが高まる時間帯。本格的に地政学的リスクが高まった際は、値頃感は無用で》としたが、先週のNY原油(3月限)は、中東やウクライナでの地政学リスクの高まりを背景に原油需給の逼迫観測が強まり、一代高値を更新。
- 先週末のNY原油(3月限)は、下落した。期近物として2014年10月以来の高値を更新し、週末を控えて目先の利益を確定する売りが優勢だった。前日の米エネルギー情報局(EIA)週報で原油在庫が8週間ぶりに増加したことをきっかけに高値から売られた流れが継続した。米株式相場下落も一因。もっとも、相場の先高観は根強く、下値は限定的。中東やウクライナを巡る地政学リスクで目先の供給不安がくすぶる中、「OPECプラス」の生産量が目標に達していないとの報道もあり、相場を下支えた。
- 原油在庫増加は米政府による戦略石油備蓄(SPR)の放出による部分が大いとの見方や、ガソリン在庫増加は春頃からの需要拡大に対する備えであり、在庫の増加から需要の弱さを連想する動きは限定的。
- 米ベーカー・フーズが発表した米国内の原油掘削装置(リグ)数は前週比1基減の491基。なおリグ数が前週比で減少したのは13週間ぶり。
- CFTC建玉明細(1/18現在)によると、大口投機玉は、385,781枚の買い越し。前週(360,505枚の買い越し)から拡大。

原油在庫
8週ぶりに増加も
SPR放出の影響

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(1/24～1/30)

～ 原油市場(ドバイ原油・CME原油指数) ～

調査課

菊川 弘之

独大衆紙ビルトが報じたロシアのウクライナ侵攻計画



※独Bild-Zeitungより弊社作成

【今週見通し・戦略】

- モルガン・スタンレーは、今年第3四半期のブレント原油の平均価格を100ドルに上方修正した。これまでの見通しは90ドル。
- ゴールドマンサックスは、ブレント原油について、2022年第3四半期(7～9月)、第4四半期(10～12月)の平均予想価格をともに100ドルとして、これまでより20ドル上方修正した。また、2022年通年も96ドルとして、15ドル上方修正。2023年は105ドルとし、20ドル上方修正した。
- ブリンケン米国務長官とロシアのラブロフ外相は21日、ウクライナ情勢を巡りスイスのジュネーブで会談した。米国はロシアが求めている安全保障について、次週回答する方針を示し、軍事紛争に発展する恐れのある危機解決に向け協議を継続する方向で一致したものの、双方の主張は平行線を辿ったまま。更に、イランの核合意復帰交渉も難航している。
- 欧州(EU)は、ガス供給の3分の1をロシアに依存しており、暖房需要が高まっている時期に、ウクライナという非NATO国のために、米国の制裁に足並みを揃えることができるか不確実だ。
- バイデン大統領が、「小規模侵攻は制裁対象にならない」とも受け取れる失言をしたことで、大規模戦争ではなく、クリミア半島併合時のような、地域限定的な短期的軍事行動が起きる可能性は高い。
- 金融正常化観測に伴う株安に追従する場面も想定されるが、安値売込みは避けたい。

ウクライナリスク 継続

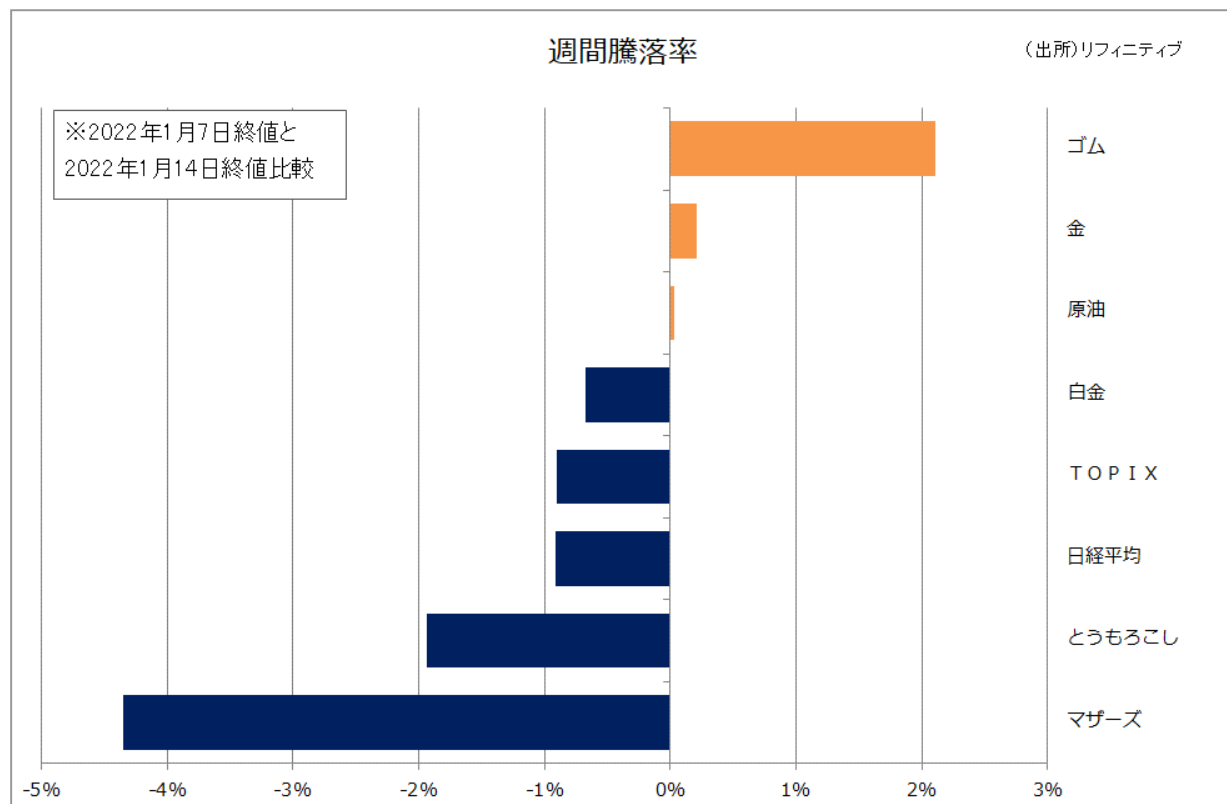
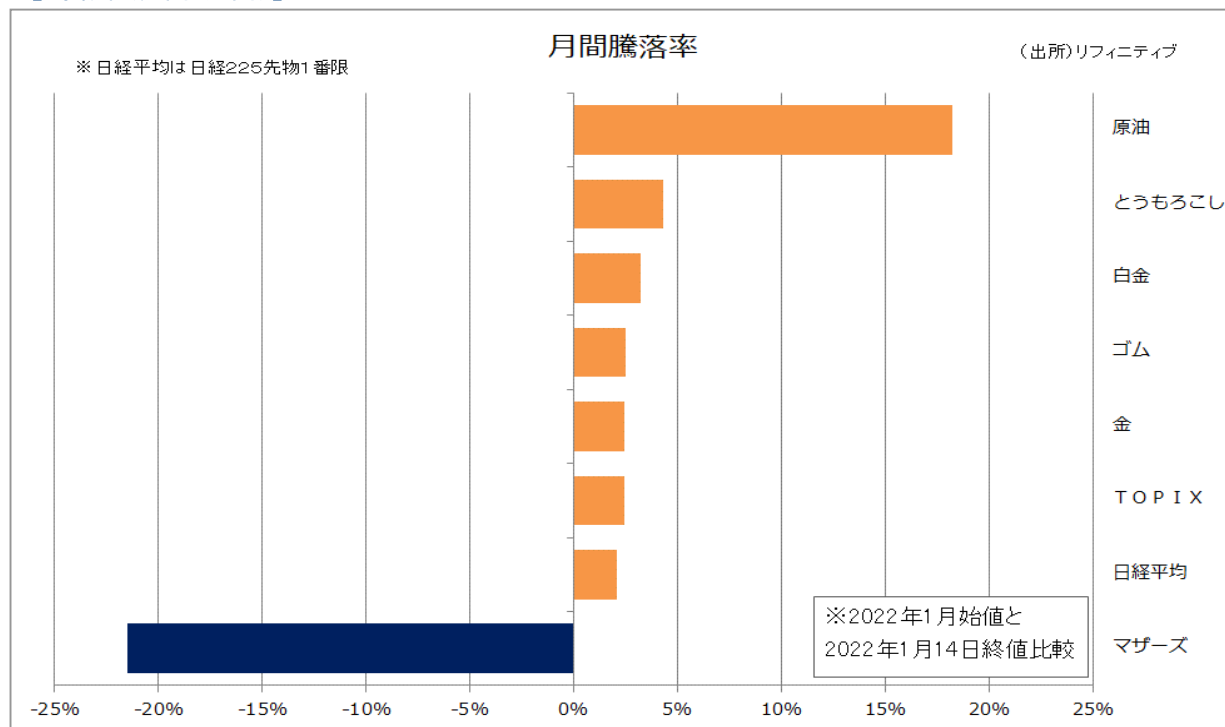
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【週間行事予定(1/24~1/30)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
1月24日(月)	17:30	ドイツ	1月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	
	17:30	ドイツ	1月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	48.7
	17:30	ドイツ	1月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	49.9
	18:00	ユーロ圏	1月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	58.0
	18:00	ユーロ圏	1月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	53.1
	18:00	ユーロ圏	1月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	53.3
	18:30	英国	1月	総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	53.6
	18:30	英国	1月	製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	57.9
	18:30	英国	1月	サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	53.6
	22:00	ドイツ	1月	消費者物価指数 (CPI) 速報値 (前月比)	
	22:00	ドイツ	1月	消費者物価指数 (CPI) 速報値 (前年比)	
	22:00	ドイツ	1月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 速報値 (前月比)	
	22:00	ドイツ	1月	EU 基準消費者物価指数 (HICP) 速報値 (前年比)	
	23:45	米国	1月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	57.0
	23:45	米国	1月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	57.7
	23:45	米国	1月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	57.6
1月25日(火)	16:00	ドイツ	12月	輸入物価 (前月比)	3
	16:00	ドイツ	12月	輸入物価 (前年比)	24.7
	18:00	ドイツ	1月	IFO 業況指数 (新)	94.7
	18:00	ドイツ	1月	IFO 現況指数 (新)	96.9
	18:00	ドイツ	1月	IFO 期待指数 (新)	92.6
	19:00	ユーロ圏	1月	業況指数	1.84
	19:00	ユーロ圏	1月	景況感指数	115.3
	19:00	ユーロ圏	1月	製造業景況感指数	14.9
	19:00	ユーロ圏	1月	サービス部門景況感指数	11.2
	19:00	ユーロ圏	1月	消費者信頼感指数 確定値	
	23:00	米国	11月	ケース・シラー20 (前月比) 季調値	0.9%
	23:00	米国	11月	ケース・シラー20 (前年比)	18.4%
	納会	日本	---	ゴム(RSS3)先物2022年1月限納会日	
	納会	日本	---	東京石油製品2022年1月限納会日	
	未定	米国	---	連邦公開市場委員会 (FOMC、～26日)	
1月26日(水)	0:00	米国	1月	消費者信頼感指数	115.8
	納会	日本	---	小豆2022年1月限納会日	
1月27日(木)	0:00	米国	12月	新築住宅販売戸数	0.744 (百万)
	4:00	米国	1月26日	FF 金利誘導目標	0-0.25
	4:00	米国	1月26日	連銀超過準備金利	0.15%
	16:00	ドイツ	2月	Gfk 消費者信頼感指数	-6.8
	22:30	米国	12月	耐久財受注	2.6%
	22:30	米国	12月	耐久財受注 輸送機器除く	0.9%
	22:30	米国	Q4	国内総生産 (GDP) 速報値	2.3%
	22:30	米国	Q4	コア 個人消費支出 (PCE) 価格 速報値	4.6%
1月28日(金)	22:30	米国	月17日, 週	新規失業保険申請件数	
	22:30	米国	月10日, 週	継続失業保険受給総数	
	0:00	米国	12月	中古住宅販売仮契約指数 (前月比)	-2.2%
	8:30	日本	1月	東京都区部コア消費者物価指数 (CPI) (前年比)	0.5%
	8:30	日本	1月	東京都区部消費者物価指数 (CPI) 総合 (前年比)	0.8%
	18:00	ユーロ圏	12月	マネーサプライ M3 伸び率 (前年比)	7.3%
	22:30	米国	12月	個人所得 (前月比)	0.4%
	22:30	米国	12月	実質消費支出 (前月比)	0.0%
	22:30	米国	12月	消費支出 (前月比) 季調値	0.6%
	22:30	米国	12月	コア 個人消費支出 (PCE) 価格指数 (前月比)	0.5%
1月29日(土)	22:30	米国	Q4	雇用コスト指数	1.5%
	0:00	米国	1月	ミシガン大 消費者信頼感指数 確報値	68.8
1月30日(日)	5:30	米国	前週分	CFTC連玉明細	
	10:45	中国	1月	財新 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	50.9

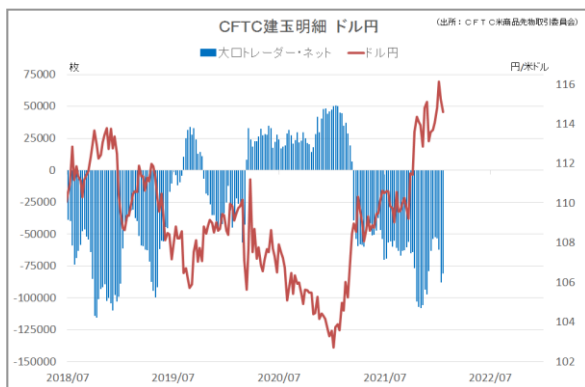
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社 に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(月間・週間)】

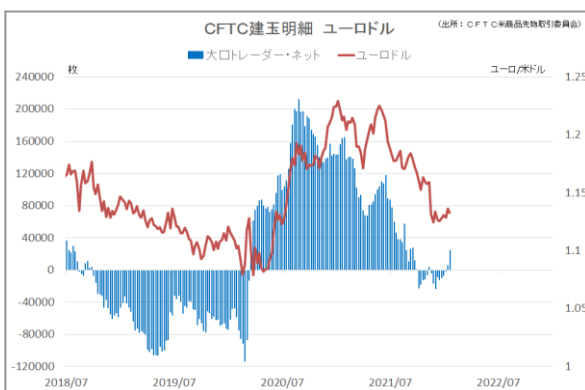


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

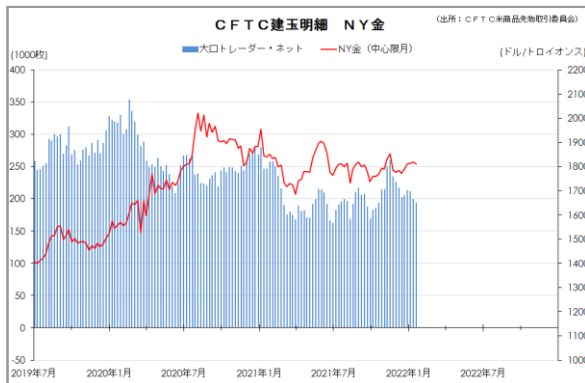
【CFTC建玉明細】



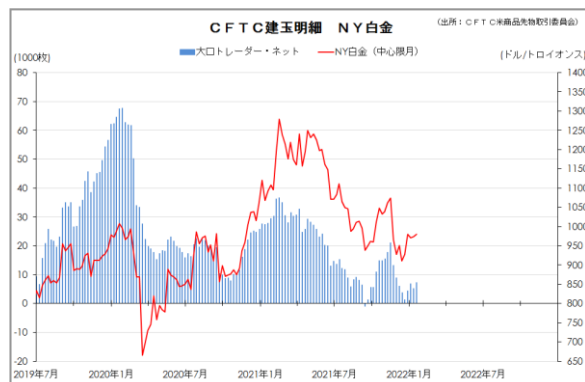
ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/21	22,191	74,477	-52,286	114.08
2021/12/28	32,475	85,577	-53,102	114.81
2022/1/4	40,816	103,078	-62,262	116.14
2022/1/11	22,364	109,889	-87,525	115.28
2022/1/18	8,002	88,881	-80,879	114.61
前週比	-14,362	-21,008	6,646	-0.67



ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/21	196,595	206,757	-10,162	1.1283
2021/12/28	198,617	205,251	-6,634	1.1309
2022/1/4	199,073	200,627	-1,554	1.1285
2022/1/11	204,361	198,356	6,005	1.1364
2022/1/18	211,901	187,317	24,584	1.1325
前週比	7,540	-11,039	18,579	-0.0039



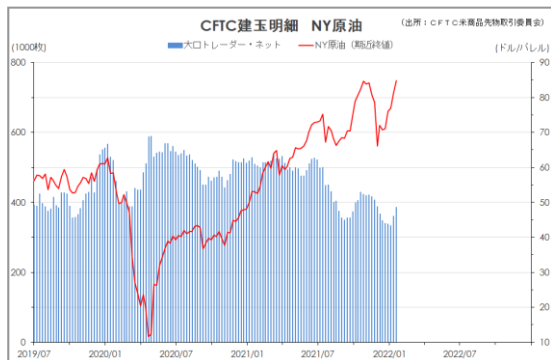
NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/21	296,628	90,817	205,811	1788.7
2021/12/28	303,879	90,723	213,156	1810.9
2022/1/4	296,583	85,228	211,355	1814.6
2022/1/11	290,102	90,365	199,737	1818.5
2022/1/18	290,528	96,321	194,207	1812.4
前週比	426	5,956	-5,530	-6.1



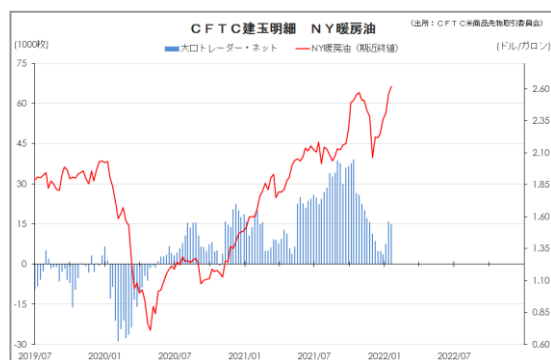
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/21	28,302	27,034	1,268	927.8
2021/12/28	27,133	22,664	4,469	979.8
2022/1/4	27,680	20,918	6,762	971.2
2022/1/11	27,751	22,462	5,289	973.2
2022/1/18	27,304	20,075	7,229	979.5
前週比	-447	-2,387	1,940	6.3

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

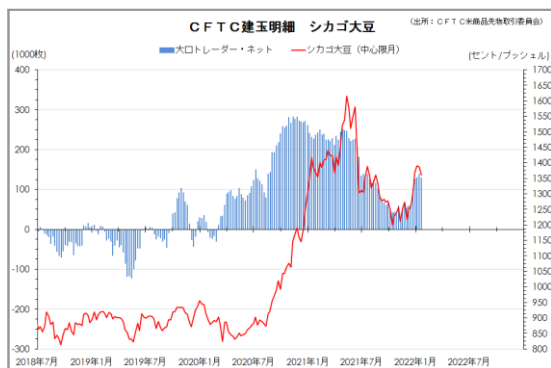
【CFTC建玉明細】



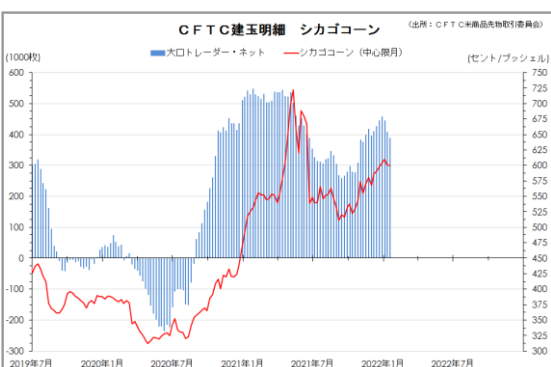
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/21	478,276	138,021	340,255	71.12
2021/12/28	469,946	131,517	338,429	75.98
2022/1/4	462,594	129,769	332,825	76.99
2022/1/11	484,370	123,865	360,505	81.22
2022/1/18	503,178	117,397	385,781	84.83
前週比	18,808	-6,468	25,276	3.61



NY暖房油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/21	39,255	34,358	4,897	2.2514
2021/12/28	41,322	37,691	3,631	2.361
2022/1/4	46,144	38,652	7,492	2.4095
2022/1/11	55,887	40,012	15,875	2.5636
2022/1/18	59,763	44,936	14,827	2.62
前週比	3,876	4,924	-1,048	0.0564



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/21	152,008	49,131	102,877	1308.00
2021/12/28	168,011	42,726	125,285	1368.00
2022/1/4	173,162	42,606	130,556	1389.75
2022/1/11	181,722	43,450	138,272	1386.50
2022/1/18	179,661	51,646	128,015	1361.25
前週比	-2,061	8,196	-10,257	-25.25



シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/12/21	517,718	72,398	445,320	598.25
2021/12/28	536,934	78,758	458,176	604.75
2022/1/4	526,997	81,516	445,481	609.50
2022/1/11	491,328	83,836	407,492	601.00
2022/1/18	476,449	88,311	388,138	599.50
前週比	-14,879	4,475	-19,354	-1.50

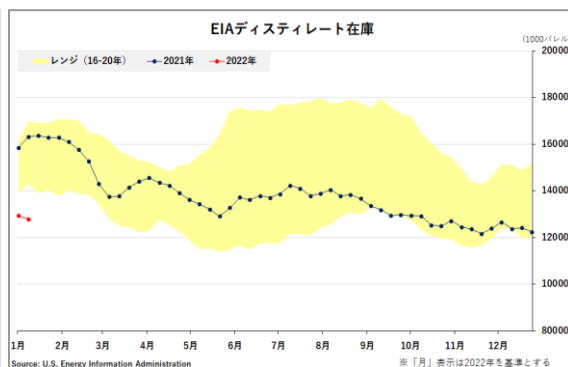
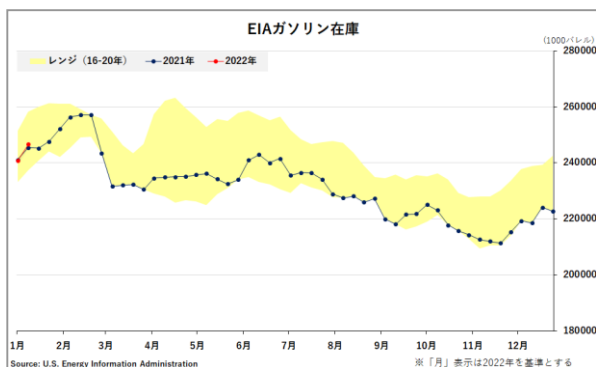
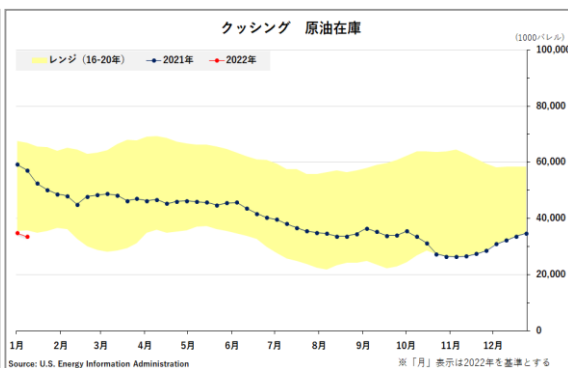
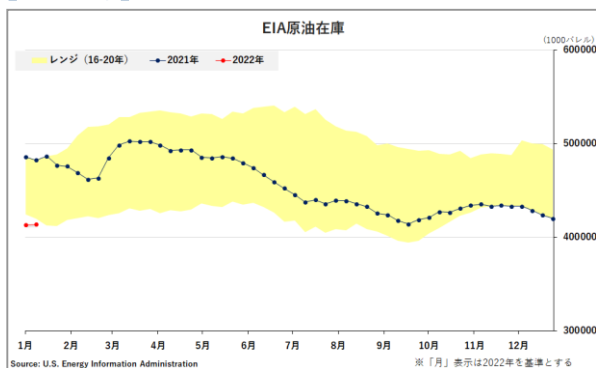
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金ETF(SPDR)】



日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/1/21	1008.45	+27.59
2022/1/20	980.86	-0.58
2022/1/19	981.44	+5.23
2022/1/18	976.21	±0
2022/1/14	976.21	±0
2022/1/13	976.21	±0
2022/1/12	976.21	±0

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社（〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。